



認知症の早期発見と支援

～自分らしく生きる～

皆さんは、昨日自分が何をしていたか思い出せますか？

「昨日は、友達と二人でランチを食べに行ったな。でも何を食べなかった？昨日食べた物を思い出せない…」これは誰にでもある物忘れ。「昨日の自分が何をしていたか全く思い出せない、二人で出かけた友人が誰だったか思い出せない…」これは、心配な物忘れかもしれません。もし、『記憶に自信がない』『家族の物忘れが心配』という方は、次の項目をチェックしてみましよう。

認知症初期症状の例

- 物を置き忘れたり、しまった物が思い出せないことがよくある
- 趣味や好きなテレビ番組に興味がなくなった
- 料理の味付けが変わった
- 蛇口の閉め忘れや、ガスを閉め忘れて鍋を焦がすことがある
- 季節に合わない服装をする

以上のいずれかに該当する方は認知への注意が必要です。気になる方は、市ホームページにある「認知症チェックサイト」をお試しください。

認知症は、年齢を経るにつれ誰もがかかる可能性がある病気です。特に初期は自覚しづらく、また本人もそれを認めたくない気持ちも強いいため、支援につながりにくいという特徴があります。しかし、早期発見と治療で、進行を遅らせることができます。心配な場合は早めにかかりつけ医にご相談ください。

自分らしい人生を送るために認知症を正しく知って早く対応することがとても大切です。

認知症初期集中支援チーム

自分や家族が「もしかしたら認知症かも？どうすればいいの?」と思われる方、ご安心ください。認知症相談窓口に電話いただければ地域包括支援センターの専門チーム員が家庭を訪問し相談に応じ、医療・介護サービスへつなげるお手伝いをします。

対象 認知症が疑われる市内在住の40歳以上の方

認知症相談窓口（中学校区）

- 大塚・三谷 ☎ 59♦6790
- 蒲郡 ☎ 69♦6674
- 中部 ☎ 66♦0800
- 塩津 ☎ 56♦7125
- 形原・西浦 ☎ 58♦1136

転がる露をあつめて

いよいよ真夏。燃える太陽が頭上から照りつける季節の到来です。「シャシャシャ…」と豪雨のようなクマゼミの大合唱が聞こえると、余計に暑くなった気がして、ついシブイ顔で日影を渡り歩いてしまいます。

夜、ようやくまぶしさから解放されて東の空を見上げると、天の川とともに輝く「夏の大三角」を見る事ができます。「夏の大三角」を描く3つの星のうち、わし座のアルタイル、こと座のベガ（3つめははくちよう座のデネブ）は、七夕伝説の織姫と彦星です。ふたりが年に一度だけ会える七夕の夜、機織りに長けた織姫に、手芸上達を願う風習がありますね。

中でも字の上達を願う際には、サトイモの葉の露で墨をするとよいといわれます。サトイモの葉の表面は微細な突起に覆われており、水をはじいて水玉状にしています。（ロータス効果といいますが、米粒のつきにくいデコボコのしゃもじなどに応用されています。）

ココロと転がる真珠のような露を集めてすった墨で、古くはカジノキの葉に和歌をしたためたそうで、かの藤原俊成も、「たなばたの門渡る舟の楫の葉にいくあき

かきつ 露のたまづさーと詠んでいます。カジノキの葉は、裏側に細かい毛が密生し、墨がよく定着します。葉についた水滴の形は、植物ごとにそれぞれです。

生物の体を持つさまざまな機能は、私たちが驚かせる興味深いものばかり。今は生き残っていない生物たちからも、面白い機能が見つかるといいな…と、七夕の空にお願いしてみたいと思います。



スギナについた水玉。古生代に栄えたトクサの仲間です。

学芸員
松本万尋

生命の海科学館
☎ 66♦1717